

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月25日

【事業年度】 第14期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

【会社名】 株式会社Eストアー

【英訳名】 Estore Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役 石村賢一

【本店の所在の場所】 東京都港区西新橋一丁目10番2号

【電話番号】 (03)3595-1106

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員  
コーポレートセンター担当 柳田要一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区西新橋一丁目10番2号

【電話番号】 (03)3595-1106

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員  
コーポレートセンター担当 柳田要一

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次		第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月		平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高	(千円)					5,337,150
経常利益	(千円)					503,686
当期純利益	(千円)					280,713
包括利益	(千円)					264,186
純資産額	(千円)					1,809,283
総資産額	(千円)					4,012,746
1株当たり純資産額	(円)					42,168.47
1株当たり当期純利益金額	(円)					6,601.30
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)					6,599.75
自己資本比率	(%)					44.7
自己資本利益率	(%)					15.7
株価収益率	(倍)					11.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)					592,548
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)					82,083
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)					159,155
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)					2,327,166
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕	(名)	〔 〕	〔 〕	〔 〕	〔 〕	138 〔19〕

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれていません。  
2 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しています。  
3 臨時雇用者には、嘱託契約の従業員及びアルバイトを含み、派遣社員を除いています。  
4 第14期より連結財務諸表を作成しているため、第13期以前については記載していません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月		平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高	(千円)	2,869,664	3,257,074	3,643,402	4,068,981	4,250,796
経常利益	(千円)	422,441	423,031	506,116	591,967	524,040
当期純利益	(千円)	231,753	238,444	287,668	328,787	280,800
持分法を適用した場合の 投資利益又は投資損失( )	(千円)	5,085	1,417	5,528	12,210	
資本金	(千円)	523,328	523,328	523,328	523,328	523,328
発行済株式総数	(株)	51,636	51,636	51,636	51,636	51,636
純資産額	(千円)	1,326,163	1,476,280	1,571,173	1,619,091	1,795,768
総資産額	(千円)	2,501,655	2,814,528	3,202,889	3,383,110	3,737,245
1株当たり純資産額	(円)	28,425.51	31,643.16	35,012.84	38,021.22	42,175.88
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	1,500 ( )	1,550 ( )	1,950 ( )	2,300 ( )	2,300 ( )
1株当たり当期純利益金額	(円)	4,967.50	5,110.91	6,364.77	7,567.21	6,603.19
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)			6,364.49	7,563.90	6,601.79
自己資本比率	(%)	53.0	52.5	49.0	47.8	48.0
自己資本利益率	(%)	18.8	17.0	18.9	20.6	16.5
株価収益率	(倍)	14.4	14.4	18.5	12.8	11.4
配当性向	(%)	30.2	30.3	30.6	30.4	34.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	254,557	505,881	680,697	634,818	
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	69,242	264,173	336,521	72,501	
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	44,183	69,806	193,604	297,435	
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	1,386,184	1,558,080	1,708,643	1,973,289	
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕	(名)	78 〔17〕	88 〔11〕	92 〔9〕	98 〔13〕	126 〔11〕

- (注) 1 第14期より連結財務諸表を作成しているため、第14期の持分法を適用した場合の投資利益又は投資損失( )、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載していません。
- 2 売上高には消費税等は含まれていません。
- 3 第10期及び第11期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。
- 4 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しています。
- 5 臨時雇用者には、嘱託契約の従業員及びアルバイトを含み、派遣社員を除いています。
- 6 平成20年3月期の1株当たり配当額1,500円には、第10期記念配当400円を含んでいます。

2 【沿革】

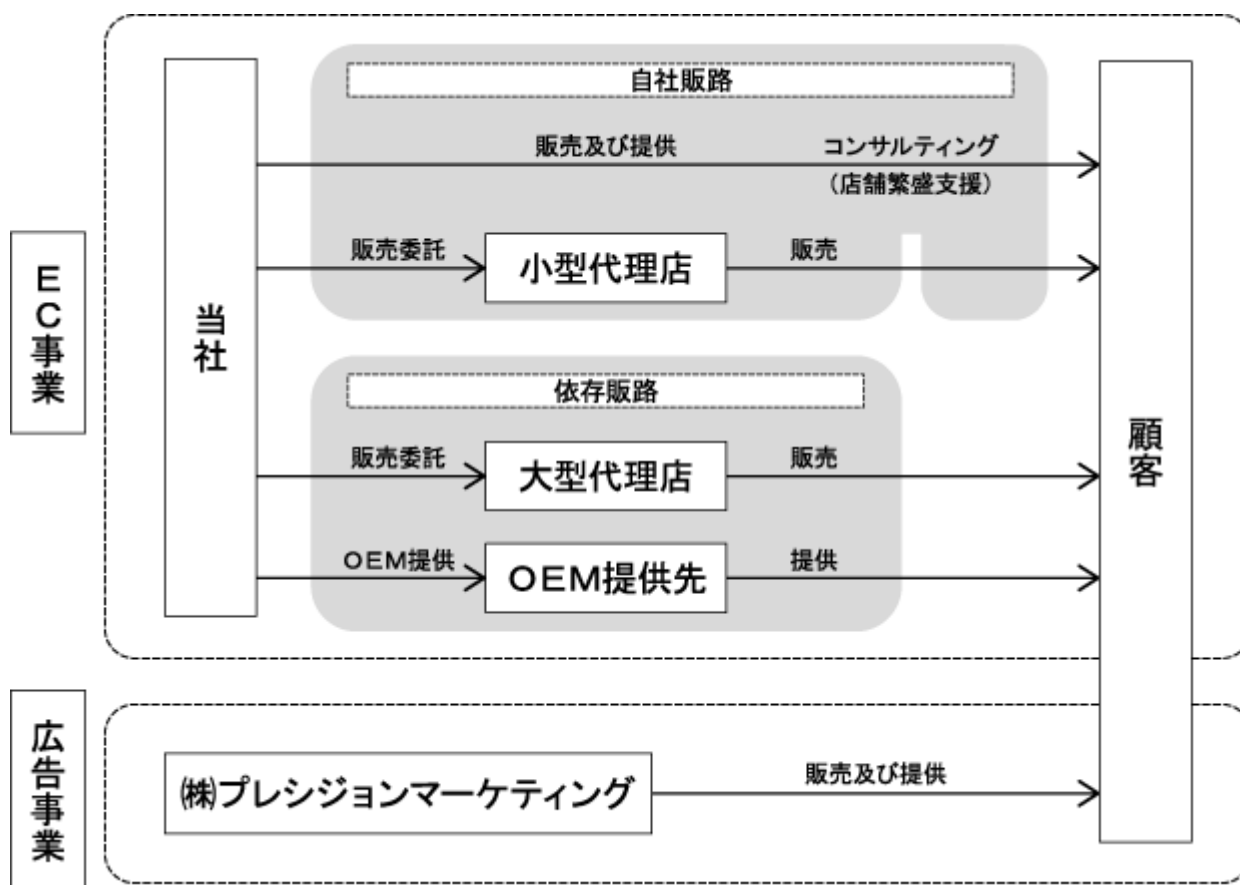
年月	概要
平成11年2月	インターネットを中心とした各種サービスの提供を目的として、東京都新宿区に資本金 1,000万円 で当社を設立
平成11年7月	ショッピングカートサービス「ストアツール」提供開始
平成11年9月	レンタルサーバー「サイトサーブ」提供開始
平成12年3月	(株)大阪有線放送社(現(株)USEN)と「ストアツール」「サイトサーブ」販売提携
平成12年6月	ソニーコミュニケーションネットワーク(株)(現 ソネットエンタテインメント(株))、(株)ジャングル と「ストアツール」「サイトサーブ」販売提携
平成13年2月	(株)日本レジストリサービスと業務提携
平成13年9月	(株)大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場(現 JASDAQ(スタンダード)市場)に上場
平成14年3月	メルボルンIT社[豪国]と業務提携
平成15年6月	商号を「(株)イストアー」から「(株)Eストアー」に変更
平成16年7月	(株)テレウェイヴ(現(株)アイフラッグ)と業務・資本提携
平成16年11月	子会社「(株)パーソナルショップ」の設立
平成17年6月	コマースリンク(株)と業務提携
平成17年7月	事業拡大及び業務効率化を図るため、東京都港区に本店移転
平成17年11月	ヤフー(株)と業務提携  (株)カカコムと業務提携
平成18年1月	独自ドメインウェブショップ総合支援サービス「ショップサーブ」提供開始
平成18年7月	(株)ECホールディングスと業務・資本提携「ECおまかせ」提供開始
平成18年11月	商品検索サイト「ショッピングフィード」提供開始
平成19年5月	レンタルサーバー「サイトサーブ2」提供開始
平成19年12月	ベトナム・ホーチミン市にシステム開発拠点を開設
平成21年2月	携帯サイト「ショッピングフィード・モバイル」提供開始
平成21年3月	ヤフー(株)と資本提携
平成21年8月	(株)主婦の友社と業務提携し、ファッションウェブマガジンに「ショッピングサーチ」を共同開設
平成21年12月	「ショッピングフィード」の提携媒体数が50サイトを突破
平成22年7月	(株)インテリジェンスと共同出資会社「(株)ECパートナーズ」の設立
平成22年10月	Googleショッピングとパートナー契約開始
平成23年6月	スマートフォン対応ASP「Eストアーモバイル」提供開始
平成23年6月	(株)プレジジョンマーケティングを連結子会社化
平成23年7月	ウェルネット(株)と業務提携、決済代行サービスを拡充
平成23年9月	Google AdWords Premier SME Partner プログラム(PSP)パートナーに認定
平成23年9月	「Eストアーコネクト」提供開始、SNS連動強化

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社である株式会社プレジジョンマーケティングと株式会社パーソナルショップの3社で構成されていますが、株式会社パーソナルショップにつきましては、本格稼働しておらず重要性が乏しいことから、連結の範囲から除外しております。当社グループの事業内容としては、EC事業においては中小企業や個人事業主が独自ドメインでウェブショップを運営するための、インターネット上の店舗の開設、集客、運営のシステムをASPモデル（ソフトウェアやサービスをレンタルする形態）で提供しています。広告事業においては、様々なWEBマーケティング手法を組み合わせることにより、ワンストップでのWEBマーケティングを提供しています。

当社グループのサービスの販売経路は下記のとおりです。

<販売経路>



<主な販売委託・OEM提供先>

株式会社アイフラッグ  
株式会社USEN  
ITX株式会社

なお、直接販売は、主に各種広告媒体や当社のホームページなどを介して行っています。

(注) 株式会社アイフラッグは、平成24年1月4日付で株式会社SBRから商号変更しています。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有 〔被所有〕 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社プレジジョン マーケティング	東京都新宿区	39,930	広告事業	49.0 (注) 1	役員の兼任 2名 (注) 2 資金の貸付
(その他の関係会社) ヤフー株式会社 (注) 3	東京都港区	7,959,000	インターネット上の広告事 業、イーコマース事業、会員 サービス事業、その他事業	〔32.5〕	役員の兼任 1名 (注) 4 ショッピング サービスでの提 携

- (注) 1 従来、株式会社プレジジョンマーケティングは関連会社でしたが、財務諸表等規則に規定する実質支配力基準に基づき、実質的に支配していると認められるため、連結子会社となりました。
- 2 株式会社プレジジョンマーケティングの代表取締役が当社取締役に就任しています。また、当社従業員が同社の役員を兼任しています。
- 3 有価証券報告書の提出会社です。
- 4 ヤフー株式会社従業員が当社の社外取締役に就任しています。
- 5 連結子会社の「主要な事業の内容」にはセグメント情報に記載された名称を記載しています。
- 6 株式会社プレジジョンマーケティングについては、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えています。

主要な損益情報等	売上高	1,233,480千円
	経常損失	17,292 "
	当期純損失	19,059 "
	純資産額	27,126 "
	総資産額	473,394 "

株式会社プレジジョンマーケティングの連結子会社化に伴い報告セグメントを新設しています。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報」の「1. 報告セグメントの概要」をご参照ください。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
EC事業	126〔11〕
広告事業	12〔8〕
合計	138〔19〕

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、正社員です。
- 2 上記従業員には使用人兼務役員が2名含まれています。
- 3 臨時雇用者数は〔 〕内に嘱託契約の従業員及びアルバイトの年間の平均人員を外数で記載しています。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
126〔11〕	32.8	3.9	5,118

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、正社員です。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。  
3 上記従業員には使用人兼務役員2名が含まれています。  
4 臨時雇用者数は〔 〕内に嘱託契約の従業員及びアルバイトの年間の平均人員を外数で記載しています。  
5 従業員数が当期中において28名増加していますが、これは組織体制の強化に伴う期中採用が増加したことによるものです。  
6 当社はEC事業の単一セグメントであるため、セグメント別の従業員数については記載していません。

(3) 労働組合の状況

当社グループには労働組合は結成されていませんが、労使関係は円満に推移しています。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

Eコマース市場は、スマートフォンの急速な台頭により、流れが大きく変わってきていることに加え、震災による混乱を経て、インターネット経由での商品購入の利便性や自由度が消費者に再認識され、インターネットショッピングに対する意識が一段と増したことから、引き続き拡大しております。このようななか、当社は第14期（平成24年3月期）を近未来への積極投資年度と位置づけ、株式会社プレジジョンマーケティングの株式取得による連結子会社化や組織体制の強化等、薄利多売の体制からの抜本改革を進めてまいりました。

以上の結果、当期における売上高は5,337百万円、営業利益は497百万円となりました。経常利益は503百万円となり、当期純利益につきましては、連結による特別利益の発生や株式評価損による特別損失もあり、280百万円となりました。

なお、連結子会社である株式会社プレジジョンマーケティングの支配獲得日を第1四半期連結累計期間の末日としているため、当期においては、同社の平成23年6月30日から平成24年3月31日までの損益計算書を連結しております。また、当期は連結初年度にあたるため、数値についての対前年同期比の表示は記載しておりません。

報告セグメントの業績は、次のとおりです。

#### (EC事業)

Eコマース市場が引き続き拡大するなか、顧客店舗業績は、一部の大型店舗様の解約による流通額の減少を受け、受注数799万回、流通額930億円となり、対前期比では受注数の増加に対し、流通額は微減となりましたが、フロウ（店舗の業績に連動）売上は1,684百万円（対前期比13.7%増）と順調に拡大し、売上構成では、フロウ売上が全体の39.6%（対前期比3.2ポイント増）となり、店舗獲得とともに、店舗業績拡大の施策に注力してきたことが寄与しております。

OEM供給を含めたサービス全体での累計契約件数は32,773件となり、前期末に比べ14,489契約の減少となっています。その要因はOEM先の自社開発への転換です。一方で自社販路の店舗系サービスは546店増と引き続き増加しており、フロウ拡大に寄与しています。

この3年間、当社は、店舗繁盛のためのトータルサービスの提供が可能である自社販路経由の店舗様の獲得に注力しており、販路別顧客数では、システム部分のOEM提供が主となる依存販路から自社販路へと切り替えが進んでおります。

なお、依存販路の減少によるストック（契約店舗数に連動）売上へのマイナス影響がしばらく発生しますが、流通総額への影響は軽微であり、むしろ、自社販路経由の店舗様の増加が予定どおりフロウ売上を伴う流通総額の増大に大きく寄与する結果となっております。



また、期初の計画どおり、数年先を視野に入れた事業づくりのため、体制、開発ともに積極的な事業投資策を行ってきた結果、当期の売上高は 4,250百万円と伸長したものの、営業利益は、計画的投資により前年比減で 516百万円となりました。

(広告事業)

連結子会社である株式会社プレジジョンマーケティングにおいて、WEBマーケティングサービスを提供しております。

当該市場の成長率は著しく、現時点においては事業規模拡大のため、利益率よりも広告取扱総量の増大を重視しており、当期の売上高は対前期比2倍超の1,233百万円となりました。また、連結に伴う会計処理の変更等により営業損失は15百万円となりましたが、利益率は薄いものの、Eストアーとの顧客層連携などによって、構造的に利益が残る事業となっており、今後これを推進します。

なお、第1四半期連結累計期間より同社を連結子会社としたことに伴い、同社の事業を新たに報告セグメントに区分しております。

(ご参考)

主要サービス別の契約件数(四半期推移)

Eコマース用レンタルサーバー件数推移

	第14期 第1四半期	第14期 第2四半期	第14期 第3四半期	第14期 第4四半期
新規契約件数	197	53	41	52
(内 直販件数)	(21)	(24)	(22)	(29)
(内 代理店販売件数)	(36)	(29)	(18)	(23)
(内 O E M販売件数)	(140)	(0)	(1)	(0)
解約件数	1,561	9,552	3,801	1,016
(内 直販件数)	(156)	(136)	(167)	(122)
(内 代理店販売件数)	(314)	(292)	(262)	(198)
(内 O E M販売件数)	(1,091)	(9,124)	(3,372)	(696)
累計件数	25,097	15,598	11,838	10,874
(内 直販件数)	(3,275)	(3,163)	(3,018)	(2,925)
(内 代理店販売件数)	(7,282)	(7,019)	(6,775)	(6,600)
(内 O E M販売件数)	(14,540)	(5,416)	(2,045)	(1,349)

ショッピングカートASP件数推移

	第14期 第1四半期	第14期 第2四半期	第14期 第3四半期	第14期 第4四半期
新規契約件数	2	0	3	6
(内 直販件数)	(2)	(0)	(3)	(6)
(内 代理店販売件数)	(0)	(0)	(0)	(0)
(内 O E M販売件数)	(-)	(-)	(-)	(-)
解約件数	38	41	30	28
(内 直販件数)	(22)	(24)	(16)	(22)
(内 代理店販売件数)	(16)	(17)	(14)	(6)
(内 O E M販売件数)	(-)	(-)	(-)	(-)
累計件数	649	608	581	559
(内 直販件数)	(412)	(388)	(375)	(359)
(内 代理店販売件数)	(237)	(220)	(206)	(200)
(内 O E M販売件数)	(-)	(-)	(-)	(-)

ウェブショップ総合パッケージ件数推移

	第14期 第1四半期	第14期 第2四半期	第14期 第3四半期	第14期 第4四半期
新規契約件数	1,722	1,600	1,095	777
(内 直販件数)	(1,063)	(1,237)	(910)	(614)
(内 代理店販売件数)	(269)	(253)	(185)	(163)
(内 O E M販売件数)	(390)	(110)	(0)	(0)
解約件数	870	949	1,006	1,145
(内 直販件数)	(637)	(682)	(720)	(755)
(内 代理店販売件数)	(146)	(155)	(174)	(147)
(内 O E M販売件数)	(87)	(112)	(112)	(243)
累計件数	20,968	21,619	21,708	21,340
(内 直販件数)	(10,912)	(11,467)	(11,657)	(11,516)
(内 代理店販売件数)	(2,955)	(3,053)	(3,064)	(3,080)
(内 O E M販売件数)	(7,101)	(7,099)	(6,987)	(6,744)

主要サービス別の契約件数（年度推移）

Eコマース用レンタルサーバー件数推移

	第11期	第12期	第13期	第14期
新規契約件数	4,215	2,364	1,219	343
(内 直販件数)	(269)	(213)	(133)	(96)
(内 代理店販売件数)	(417)	(291)	(153)	(106)
(内 O E M販売件数)	(3,529)	(1,860)	(933)	(141)
解約件数	5,070	5,507	6,148	15,930
(内 直販件数)	(1,036)	(820)	(746)	(581)
(内 代理店販売件数)	(2,479)	(2,117)	(1,393)	(1,066)
(内 O E M販売件数)	(1,555)	(2,570)	(4,009)	(14,283)
累計件数	34,533	31,390	26,461	10,874
(内 直販件数)	(4,630)	(4,023)	(3,410)	(2,925)
(内 代理店販売件数)	(10,626)	(8,800)	(7,560)	(6,600)
(内 O E M販売件数)	(19,277)	(18,567)	(15,491)	(1,349)

ショッピングカートA S P件数推移

	第11期	第12期	第13期	第14期
新規契約件数	52	65	52	11
(内 直販件数)	(47)	(60)	(51)	(11)
(内 代理店販売件数)	(5)	(5)	(1)	(0)
(内 O E M販売件数)	(-)	(-)	(-)	(-)
解約件数	330	248	241	137
(内 直販件数)	(229)	(173)	(186)	(84)
(内 代理店販売件数)	(101)	(75)	(55)	(53)
(内 O E M販売件数)	(-)	(-)	(-)	(-)
累計件数	1,057	874	685	559
(内 直販件数)	(680)	(567)	(432)	(359)
(内 代理店販売件数)	(377)	(307)	(253)	(200)
(内 O E M販売件数)	(-)	(-)	(-)	(-)

ウェブショップ総合パッケージ件数推移

	第11期	第12期	第13期	第14期
新規契約件数	6,458	6,718	7,295	5,194
(内 直販件数)	(3,587)	(4,067)	(4,370)	(3,824)
(内 代理店販売件数)	(869)	(1,097)	(1,065)	(870)
(内 O E M販売件数)	(2,002)	(1,554)	(1,860)	(500)
解約件数	1,638	2,426	3,248	3,970
(内 直販件数)	(1,215)	(1,723)	(2,379)	(2,794)
(内 代理店販売件数)	(247)	(392)	(526)	(622)
(内 O E M販売件数)	(176)	(311)	(343)	(554)
累計件数	11,777	16,069	20,116	21,340
(内 直販件数)	(6,151)	(8,495)	(10,486)	(11,516)
(内 代理店販売件数)	(1,588)	(2,293)	(2,832)	(3,080)
(内 O E M販売件数)	(4,038)	(5,281)	(6,798)	(6,744)

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、2,327百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローは次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、592百万円となりました。主な増加要因は、税金等調整前当期純利益 484百万円、E C事業における顧客の決済代行額増加による預り金の増加 258百万円、減価償却費 216百万円であり、減少要因は、法人税等の支払額 259百万円、売上債権の増加 252百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は、82百万円となりました。これは主に、ソフトウェア開発等による無形固定資産の取得に伴う支出 109百万円、サーバー等の購入による有形固定資産の取得に伴う支出 67百万円、投資有価証券の売却に伴う収入 92百万円、投資有価証券の取得に伴う支出 5百万円、差し引き 87百万円の収入によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動による資金の減少は、159百万円となりました。これは、配当金の支払額 97百万円、長期借入金の返済による支出 49百万円、1年内返済予定の長期借入金の返済による支出 11百万円によるものです。

なお、当連結会計年度は連結初年度にあたるため、前年同期との比較分析はおこなっていません。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績及び受注実績

当社グループはインターネット上での各種サービスの提供をおこなっており、受注生産形態をとらないサービスも多いため、セグメントごとに生産の規模及び受注の規模を金額あるいは数量で示すことはしていません。

### (2) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
EC事業	4,250,796	
広告事業	1,086,353	
合計	5,337,150	

(注) 1 第14期より連結財務諸表を作成しているため、前年同期比については記載していません。

2 本表の金額には、消費税等は含まれていません。

## 3 【対処すべき課題】

インターネットが広く社会に浸透し、今後も関連する事業の更なる拡大が期待されることから、当社グループの行う各種サービスに対する需要は更に拡大するものとの見通しに基づき、将来収益への投資を優先課題として対処してまいります。

#### 4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業の展開上、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、当社株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載内容も併せて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。また、以下の記載は当社株式への投資に関連するリスクを全て網羅するものではありませんので、この点にご留意下さい。

なお、本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は本書提出日現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在していることから、実際の結果と異なる可能性があります。

##### (1) 事業環境について

###### Eコマース市場について

当社グループは、中小企業や個人事業主をメインターゲットとして、Eコマース（インターネットを利用した商取引）を行うための各種サービスを提供しております。当社グループの事業マーケットであるEコマース市場は、引き続き堅調な推移で拡大を続けておりますが、インターネット及びEコマースは歴史が浅く、これらの普及に関しての将来性は不透明な部分があり、急激な成長に伴い、安定性・信頼性が損なわれるなどの弊害の発生、法的規制の導入などの要因により、インターネット利用者数やEコマースの市場規模が順調に成長しないおそれがあります。その場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

###### Eコマース市場での競合について

当社グループの主力サービスの一つであるEコマースを行うための各種サービスにおいては、主に「Eコマース機能への特化」という差別化によりウェブショップの開店と運営を支援することを軸として、拡大するマーケットの中でのポジションの確立を明確にまいりました。インターネットビジネスが成長し続けるなか、ウェブショップ支援事業、レンタルサーバー事業におきましては、多くの競合他社が存在し、機能競争、価格競争が活発化しております。今後において当社グループと同様のサービスを提供する事業者の一層の増加、資本力・ブランド力・技術力を持つ大手企業の参入、又は全く新しいビジネスモデルや技術によるサービスを提供する事業者が出現する可能性は否定できません。したがって、既存事業者の動向や新規参入の状況等により、当社グループのサービスが十分に差別化できない場合、また当社グループの価格体系が競争力を失った場合等には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

###### インターネット広告市場について

当社グループが事業を展開しているインターネット広告市場は、近年インターネットの普及により、急速に拡大してまいりました。しかしながら広告ビジネスは景気の影響を受けやすく、特に不景気になった場合、広告主の収益悪化に伴い、広告需要が減退し、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### インターネット広告市場での競合について

当社グループが事業を展開しているインターネット広告市場には、既に複数の競合事業者が存在しており、また新たに参入しやすい市場であります。このため、当社グループは、引き続き顧客ニーズに対応したサービスの開発等を進めて他社との差別化を図っておりますが、競合事業者によるサービス改善、新しいビジネスモデルの登場、競合事業者の一層の増加、資本力・ブランド力・技術力を持つ大手企業の参入等により、当社グループのサービスが競争力を失った場合等には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 技術革新について

当社グループの属するインターネット業界は、技術の進歩が著しく、新技術、新サービスが常に生み出されています。今後、当社グループが想定しない新技術、新サービスの普及等により事業環境が変化した場合には、必ずしも迅速に対応できないおそれがあり、また、新技術、新サービスに対応するための仕組みの変更、又は費用の支出を余儀なくされるなど、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 事業内容について

#### 情報セキュリティについて

当社グループは、ハッカー等の第三者からのサーバー等への侵入に対して、ネットワーク監視システムなどで常時モニタリングを行い、データの送受信には暗号化を行うなどのセキュリティの強化に尽力しております。しかしながら、ハッカー等による顧客及び購入者等の個人情報、その他の重要な情報を不正に入手される可能性は否定できません。このような事態が生じた場合には、当社グループへの法的責任の追求や企業イメージの悪化等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### システムトラブルについて

当社グループは、常に安定したサービスを提供し続けられるシステムの構築に努めております。また、サーバー等の保管につきましては、外部のデータセンターを利用することにより、安全性の確保に努めております。しかしながら、自然災害、事故等による通信ネットワークの切断、急激なアクセスの増大によるシステムの不具合、ハードウェアの故障、各種作業における人為的ミス等によるサービスの停止、中断の可能性は否定できません。このような事態が生じた場合には、当社グループへの法的責任の追求や企業イメージの悪化等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 顧客の違法行為及びトラブル等による当社グループへの影響について

当社グループでは、各種サービスにおいて、サービスの申込時に、顧客の属性、販売予定商品、広告内容等を把握するよう努めております。また、当社グループのサービスを利用した公序良俗又は法令に違反する行為を禁止すること、当社グループは顧客と購入者又は第三者との紛争に関し一切責任を負わないこと等を顧客に告知しております。加えて、インターネット上の違法または有害な情報について、送信防止措置等の対応をとるとともに、必要に応じて、顧客への改善要求や行政機関への情報開示等を行っております。しかしながら、人的資源の制約等から顧客の属性や取引の状況等を完全に把握することは難しく、顧客の違法行為等が発生した場合、また、顧客の行為に起因するトラブルが生じた場合には、当社グループへの法的責任の追求や企業イメージの悪化等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 販売体制について

当社グループは、小規模組織であることから、創業当初より、複数の異なる販路をもつ販売代理店と提携することにより、多様な層の顧客を取り込んでまいりました。一方で、当社グループサービスの理解と長期の利用を目的に、直販にも注力しており、顧客との信頼関係の構築に尽力しております。今後においても直販の強化を継続するとともに、代理店販売等の追加を行い、営業力の総合的な強化を図ってまいります。見込み顧客の減少、顧客獲得数の減少や、獲得効率の低下による人件費の増大などにより、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 個人情報保護について

当社グループは、各種サービスの提供過程において、それぞれのサービス提供に必要な個人情報を取得しております。その結果、当社グループは個人情報取扱事業者としての義務を課されており、個人情報保護規程の制定、遵守とともに、社員教育のための啓蒙活動の実施、システム面のセキュリティ向上策としての「TRUSTe」取得等、その適切な取り扱いに尽力しております。しかしながら、情報の外部流出や悪用等のトラブルが発生した場合には、当社グループへの法的責任の追求や企業イメージの悪化等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 事業体制について

#### グループ経営について

当社グループは、平成24年第1四半期より四半期連結財務諸表を作成し、連結グループ経営を開始しております。当社は、連結子会社についてその運営にあたり、適切な管理及び支援を行っております。しかしながら、当社による連結子会社への管理及び支援が適切に行われず、当該連結子会社の業績の悪化や不祥事等が発生した場合、支援費用の発生や企業イメージの悪化等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。



#### 事業の拡大に伴う内部管理体制の充実について

当社グループは、(3) で述べたとおり、連結グループ経営を開始し、新たな事業分野に進出し、事業の拡大を図っております。それに伴い、適正な連結財務諸表の作成、内部統制の徹底、コンプライアンス対策の強化等、当該事業拡大を支える内部管理体制の充実に努めております。しかしながら、体制の整備が事業の拡大に追いつかず、内部管理体制が不十分になり、不祥事等が発生した場合、当社グループへの法的責任の追求や企業イメージの悪化等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 小規模組織であることについて

当社グループは、平成24年3月31日現在、従業員数138名と組織が小さく内部管理体制もこのような規模に応じたものとなっています。今後におきましては、必要に応じて人員の拡充を図っていく方針ですが、人員の増加に対する管理体制の構築が順調に進まない場合には、業務に支障をきたす可能性があります。当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 人的資源について

当社グループは、顧客のサポートが重要であると認識し、様々な手法による顧客サポートを行っております。また、当社グループの属するインターネット業界は技術革新が常態であり、変化も速いことから、市場のニーズに迅速に対応し、既存サービスの改善、拡充を図るとともに、新たな付加価値を持つサービスの企画、開発を適時に進める方針です。さらに、管理体制の維持構築、財務報告の信頼性を高めるためには、管理部門の一層の強化が不可欠です。そのようななか、当社グループでは、社員、契約社員、派遣社員、アルバイト等が、採用形態を問わず各種の業務に従事しておりますが、それら従業員が退職した場合に、当社グループの必要とする人材を必要数、適時に確保できる保証はなく、また、計画どおりの人材育成や適正な人員配置が行われない場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 代表者への依存について

当社の創業者であり代表取締役である石村賢一は、当社グループの経営方針や戦略の決定をはじめ、新規事業や新サービスの企画、立案、販売及び業界交流等各方面において重要な役割を果たしております。当社グループは、同氏に過度に依存しない経営体制の構築を進めるとともに、人材の育成や、外部からの人材の確保等により権限の委譲を進めておりますが、何らかの理由により同氏が退任するような事態が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 関連当事者との関係について

ヤフー株式会社は当社議決権数の32.5%を所有する当社の主要株主である筆頭株主であり、「その他の関係会社」に該当します。当社グループは、同社との資本提携により、インターネット関連事業における両者の強みを活かし、緊密な連携・協力を進めることで、相互の企業価値増大を目指してまいりますが、同社の事業戦略の変更等により、協業体制に変更が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### E C事業における主要取引先との協業関係について

当社グループのE C事業において、三菱UFJニコス株式会社及び株式会社ジェーシービーは、重要な取引先であり、現在も良好な関係を保っておりますが、今後、両社の事業戦略の変更等により、当社グループとの契約について、当社グループに不利な内容変更や、契約更新の拒絶を求められる可能性があり、その場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 広告事業における特定取引先への高い依存度について

当社グループの事業の一つである、広告事業については、リスティング広告の販売を行うにあたり、当社グループは、ヤフー株式会社及びGoogle Inc.の正規代理店となっております。当社グループの当該事業において、両社のサービスに対する売上高の割合は、突出して高い状況にあります。これは、現在のリスティング広告市場が両社により寡占状態にあることに起因しております。当社グループは両社と良好な関係を保っており、代理店契約も継続する予定ではありますが、両社の経営戦略の変更等により、当社グループとの代理店契約について、当社グループに不利な内容変更や、契約更新の拒絶を求められる可能性があり、その場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 知的財産権について

当社グループは、独自開発のシステムやビジネスモデルに関して、特許権や実用新案権などの対象となる可能性のあるものについては、その取得を目指して対応する方針ですが、現在、当社グループの主要なサービスのシステムやビジネスモデルについては、技術的、ビジネス的に特許には該当しないものと判断しており特許出願等を行っていません。今後において、当社グループのサービスに採用されている手法・仕組みの全部又は一部が、今後成立するビジネスモデル特許と抵触する可能性は否定できません。このような場合には、法的な紛争が生ずること、サービスの手法・仕組みの変更を余儀なくされること、又はロイヤリティの支払い等により、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 投融資について

当社グループは、サービス販売等に関わる業務を有利に行うこと、また、資金の効率的な運用を目的として、投融資を行っています。今後も、他の事業者のノウハウ獲得や、業務提携、資金運用を目的として、必要に応じて投融資を行い、事業の拡大を図る方針です。その際の投融資額につきましては、現在の事業規模と比較して多額となる可能性があり、当社グループの財務状況など経営全般にわたるリスクが拡大する可能性があります。また、投融資先の経営成績又は財政状態の推移によっては、投融資額を回収できない可能性もあり、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (6) コンプライアンスについて

### 法的規制等について

当社グループは、事業を運営するにあたり様々な法令等規制の適用を受けており、「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」、「特定商取引に関する法律」、「消費者契約法」、「古物営業法」、「資金決済に関する法律」、「電気通信事業法」等の各種法令や、監督官庁の指針、ガイドライン等の予期せぬ制定や改正により、当社グループの事業が新たな規制を受け、または既存の規制が強化された場合には、当社グループの事業運営に制限を受ける等、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 訴訟について

当社グループが事業を展開する上では、システム障害、インターネットにおけるトラブル、個人情報の不適切な取り扱い、知的財産権の侵害、投融資等に起因する様々な訴訟や請求の可能性を否定できず、その内容及び結果によって、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。なお、過去において、当社グループの事業及び業績に影響を与える訴訟は発生しておりません。

## (7) 災害等について

当社グループは、地震、台風、洪水、津波等の自然災害、火災、停電、テロ、戦争、その他の要因による社会的混乱等が発生した場合に備え、事業継続計画の策定を推進する等、有事の際の対応策を事前に検討しておりますが、これらの災害等による影響を完全に防止または軽減できず、当社グループのサービスが一時停止する等、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。なお、当社グループの主要な事業所は東京都に集中しており、同所において前述の災害等が発生した場合には、当社グループのサービスの一時停止等の影響に加え、事業の継続自体が不可能になる等、当社グループの事業及び業績に特に深刻な影響を及ぼす可能性があります。また、災害等の発生によって、電力その他のエネルギーの使用制限による社会インフラ能力の低下、個人消費意欲の低下等の副次的な影響により、E C事業においては顧客であるネットショップの売上高減少による手数料収入の減少に、また広告事業においては広告主の収益悪化に伴う広告需要減退による広告取扱高の減少につながる可能性があります。当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

### (1) 業務委託契約

契約会社	契約締結先	契約品目	契約内容	契約期間
当社	株式会社USEN	業務委託	サイトサーブの販売委託	平成14年5月1日から 期間1年の自動更新
当社	株式会社アイフラッグ	業務委託	レンタルサーバーサービスのOEM開発及び運用の受託	平成17年4月1日から 平成24年9月30日まで
当社	株式会社アイフラッグ	業務委託	CMSサービスシステムの監視・運用業務の受託	平成18年4月1日から 平成24年9月30日まで
当社	株式会社アイフラッグ	業務委託	ウェブショップCMSサービスのOEM開発及び運用の受託	平成18年10月1日から 平成25年9月30日まで

(注) 株式会社アイフラッグは、平成24年1月4日付で株式会社SBRから商号変更しています。

### (2) 代理販売委託契約

契約会社	契約締結先	契約品目	契約内容	契約期間
当社	株式会社USEN	代理販売	サイトサーブの非独占代理販売委託 ストアツールの非独占代理販売委託	平成12年3月21日から 期間1年の自動更新

### (3) 代理販売受託契約

契約会社	契約締結先	契約品目	契約内容	契約期間
株式会社 プレジジョン マーケティング	ヤフー株式会社	代理販売	広告の非独占代理販売受託	平成20年8月26日から 期間1年の自動更新

### (4) 業務提携契約

契約会社	契約締結先	契約品目	契約内容	契約期間
当社	三菱UFJニコス株式会社	包括代理 加盟店	当社顧客ウェブショップと信販会社間のクレジットカード決済事務代行に関する提携契約	平成13年3月26日から 期間の定めなし
当社	株式会社ジェーシービー	包括代理 加盟店	当社顧客ウェブショップと信販会社間のクレジットカード決済事務代行に関する提携契約	平成15年4月15日から 期間1年の自動更新

## 6 【研究開発活動】

当連結会計年度は、近未来への積極投資年度と位置づけ、開発系と顧客対応に関する人材投資を過去最大に進めてまいりましたが、研究開発費としては 23千円となり、特記すべき事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は以下のとおりです。

### (1) 財政状態の分析

#### (資産)

当連結会計年度末における資産の残高は、4,012百万円となりました。その主な内訳は、現金及び預金 2,327百万円、売掛金 749百万円、ソフトウェア 292百万円、工具、器具及び備品 171百万円、敷金 116百万円です。

#### (負債)

当連結会計年度末における負債の残高は、2,203百万円となりました。その主な内訳は、預り金 1,465百万円、買掛金 276百万円、未払金 144百万円です。

#### (純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、1,809百万円となりました。その主な内訳は、資本金 523百万円、資本剰余金 539百万円、利益剰余金 1,724百万円、自己株式 991百万円であり、自己資本比率は 44.7%となりました。

なお、当連結会計年度は連結初年度にあたるため、前連結会計年度との比較分析はおこなっていません。

### (2) 経営成績の分析

#### (売上高)

売上高は 5,337百万円となりました。これは、EC事業において、依存販路の契約件数の減少や大型店舗様解約による流通額の減少はあったものの、フロウ売上の礎となる自社販路の店舗系サービスの契約件数は純増となり、決済代行額も引き続き順調に増加した結果 4,250百万円の売上を確保できたことに加え、株式会社プレジジョンマーケティングの連結子会社化により新たに加わった広告事業の売上を1,086百万円（連結会社相互間の内部売上高を除く）を計上したことによるものです。なお、詳しくは「1 業績等の概要 (1) 業績」を参照ください。

#### (売上原価)

売上原価は 3,568百万円となりました。これは主に、外注加工費 1,297百万円と、人件費 597百万円、各決済代行会社への代行手数料 909百万円によるものです。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は、1,270百万円となりました。これは主に、人件費 349百万円と、新規顧客獲得の為に広告宣伝費 220百万円、代理店への紹介手数料 159百万円、地代家賃 135百万円によるものです。

(営業利益)

営業利益は、497百万円となりました。

(営業外収益と費用)

営業外収益は、14百万円となりました。これは主に、投資有価証券の売却に伴う売却益 8百万円と、為替差益 2百万円によるものです。

営業外費用は、8百万円となりました。これは主に、投資事業組合運用損 5百万円と、投資有価証券の売却に伴う売却損 2百万円によるものです。

(経常利益)

経常利益は、503百万円となりました。

(特別利益)

特別利益は、14百万円となりました。これは主に、連結子会社の段階取得に係る差益 12百万円によるものです。

(特別損失)

特別損失は、33百万円となりました。これは主に、関係会社株式の再評価に伴う評価損 19百万円と、関係会社への貸付に対する貸倒引当金繰入額 10百万円によるものです。

(当期純利益)

以上の結果、税金等調整前当期純利益は、484百万円となりました。また、当期純利益は、280百万円となり、1株当たり当期純利益金額は、6,601円30銭となりました。

なお、当連結会計年度は連結初年度にあたるため、前連結会計年度との比較分析はおこなっていません。

(3) キャッシュ・フローの分析

「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は183,922千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりです。なお、有形固定資産のほか、無形固定資産への投資を含めて記載しています。

##### (1) EC事業

当連結会計年度の主な設備投資は、既存サービスへ新機能を追加したこと、また、サービスインフラの効率化、安定化を図ったことによるソフトウェア開発等98,275千円、サービス提供用サーバーの増強を目的とした設備投資83,632千円となっています。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

##### (2) 広告事業

当連結会計年度の主な設備投資は、オフィス事務機器の整備等2,014千円となっています。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (名)
			建物	工具、 器具及び備品	合計	
本社 (東京都港区)	EC事業	事務業務及び サーバー等	14,645	20,571	35,217	126
大阪営業所 (大阪府大阪市淀川区)	EC事業	事務業務	590	122	712	
四谷データセンター (東京都新宿区)	EC事業	サーバー等		34,817	34,817	
有明データセンター (東京都江東区)	EC事業	サーバー等		429	429	
新川データセンター (東京都中央区)	EC事業	サーバー等		114,872	114,872	
合計			15,235	170,813	186,049	126

##### (2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (名)
				建物	工具、 器具及び備品	合計	
(株)プレジジョン マーケティング	本社 (東京都新宿区)	広告事業	事務業務	172	752	925	12

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、今後1年間の景気予測、業界動向、投資効率等を勘案して策定しています。なお、平成24年3月31日現在における重要な設備の新設計画、改修計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	206,544
計	206,544

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株)(平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	51,636	51,636	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式です。 なお、単元株式制度を採用していません。
計	51,636	51,636		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。



(2) 【新株予約権等の状況】

旧商法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成17年6月24日 株主総会特別決議		
	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	1,180	1,163
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	1,180	1,163
新株予約権の行使時の払込金額(円)	320,000	同左
新株予約権の行使期間	平成19年7月1日から 平成27年3月31日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 320,000 資本組入額 160,000	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員であることを要する。ただし、社命による転籍の場合は除く。</p> <p>対象者のうち、社外協力者は新株予約権の行使時においても、社外協力者であることを要する。</p> <p>権利を与えられた者が死亡した場合は、その死亡時において本人が行使しうる株式数を上限として6ヶ月以内(ただし、新株予約権の行使期間の末日までとする)に相続人の行使を認める。なお、行使開始日以前に死亡した場合は、相続を認めない。</p> <p>新株予約権の質入れその他一切の処分は認めないものとする。</p> <p>この他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) 1 新株予約権発行日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式を処分する場合(平成14年4月1日改正後の旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の行使により新株式を発行する場合を除く)は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

2 32名退職により、新株予約権の数 677個と新株予約権の目的となる株式の数 677株は失権しております。

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成21年 5 月20日 取締役会決議		
	事業年度末現在 (平成24年 3 月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年 5 月31日)
新株予約権の数(個)	60	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	60	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	70,916	同左
新株予約権の行使期間	平成22年 7 月 1 日から 平成30年 3 月31日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 70,916 資本組入額 35,458	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員であることを要する。ただし、社命による転籍の場合は除く。</p> <p>権利を与えられた者が死亡した場合は、その死亡時において本人が行使しうる株式数を上限として6ヶ月以内(ただし、新株予約権の行使期間の末日までとする)に相続人の行使を認める。なお、行使開始日以前に死亡した場合は、相続を認めない。</p> <p>新株予約権の質入れその他一切の処分は認めないものとする。</p> <p>この他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) 新株予約権発行日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権発行後、時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式を処分する場合(新株予約権の行使により新株式を発行する場合を除く)は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{ 株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年9月1日		51,636		523,328	134,852	134,852

(注) 平成19年6月26日開催の定時株主総会における資本準備金減少決議に基づくその他資本剰余金への振替であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(名)		3	9	26	1	2	1,585	1,626	
所有株式数 (株)		1,361	245	22,780	4	69	27,177	51,636	
所有株式数 の割合(%)		2.64	0.47	44.12	0.01	0.13	52.63	100.00	

(注) 自己株式 9,111株は、「個人その他」に含まれています。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
ヤフー株式会社	東京都港区赤坂 9 - 7 - 1	13,800	26.72
株式会社ユニコム	東京都港区西新橋 1 - 10 - 2	8,480	16.42
水谷量材	兵庫県淡路市	3,415	6.61
石村賢一	東京都港区	2,570	4.97
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 11	1,147	2.22
内山洋	東京都渋谷区	772	1.49
水谷伊津子	兵庫県淡路市	706	1.36
佐藤武志	神奈川県横浜市栄区	528	1.02
日野秀一	京都府京都市左京区	460	0.89
氣谷忠征	大阪府堺市堺区	271	0.52
計		32,149	62.26

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式 9,111株(17.64%)があります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,111		
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,525	42,525	
単元未満株式			
発行済株式総数	51,636		
総株主の議決権		42,525	

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社Eストアー	東京都港区西新橋 1-10-2	9,111		9,111	17.64
計		9,111		9,111	17.64

(注) 従来相互保有株式を保有していた株式会社プレジジョンマーケティングの相互保有株式2株は、平成23年6月22日に同社を連結子会社としたことに伴い、当事業年度において、売却処分をしております。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストック・オプション制度を採用しています。

旧商法に基づき、株主以外の者に対して特に有利な条件をもって新株予約権を発行することを平成17年6月24日の定時株主総会において決議いたしました。

当該制度の内容は、以下のとおりです。

決議年月日	平成17年6月24日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 6 監査役 3 従業員 56 社外協力者 5 (注)
新株予約権の目的となる株式の種類	(2) 「新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 平成24年5月31日現在におきましては、付与対象者は退職により 32名減少し、38名であり、新株発行予定数は 677株失効し、1,163株であります。

会社法に基づき、当社取締役に対して新株予約権を発行することを平成21年5月20日の取締役会において決議いたしました。

当該制度の内容は、以下のとおりです。

決議年月日	平成21年5月20日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 2 従業員 1 (注)
新株予約権の目的となる株式の種類	(2) 「新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 取締役会決議時点における付与対象者の区分及び人数は、取締役2名使用人1名でありましたが、当該使用人は平成21年6月24日の定時株主総会において当社取締役に選任されております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他 ( )				
保有自己株式数	9,111		9,111	

### 3 【配当政策】

当社は、株主の皆様へ安定した利益還元を行うことは最重要課題のひとつと考えており、経営成績、財政状態、配当性向及び将来の事業展開のための内部留保の充実など、バランスを総合的に勘案して成果の配分を行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度における剰余金の配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり2,300円としており、配当性向は34.8%となっております。

当社では、今後につきましても、基本方針に基づいた株主の皆様への積極的な利益還元を行ってまいります。

内部留保資金につきましては、今後の事業展開への備えと資金獲得のための投資に使用していくこととしております。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成24年6月22日 定時株主総会決議	97,807	2,300

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	146,000	88,800	133,000	139,000	119,000
最低(円)	65,000	38,700	59,000	75,200	70,400

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月11日以前は大阪証券取引所ヘラクレスにおけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	81,000	80,000	75,500	73,000	83,000	79,500
最低(円)	73,500	70,500	71,100	70,400	70,800	75,000

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。



5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役		石 村 賢 一	昭和37年10月14日生	昭和61年4月 ㈱アスキー入社 昭和63年10月 同社社長室 広報担当 事業開発担当部長 平成2年12月 ㈱アスキーエクスプレス設立 取締役企画部長 平成3年12月 ㈱アスキーエアーネットワーク設立 代表取締役 平成6年10月 ㈱アスキーネット 取締役 平成8年7月 ㈱アスキーインターネットサービス カンパニー 副事業部長 平成10年6月 セコム㈱入社 ネットワークセキュリティ事業部 スーパーバイザー 平成11年2月 当社設立 代表取締役(現任) 平成13年12月 ㈱インフォビユー 取締役 平成16年11月 ㈱パーソナルショップ設立 代表取締役(現任) 平成17年8月 ㈱ワイズワークスプロジェクト 取締役 平成17年10月 ㈱ユニコム 代表取締役(現任) 平成18年7月 ㈱E Cホールディングス 取締役(現任)	(注)3	2,570
取締役	執行役員	高 崎 青 史	昭和50年1月30日生	平成7年4月 ヤマト運輸㈱入社 平成11年4月 (有)バサラ・クリエイティブ入社 平成12年4月 当社入社 平成12年10月 当社サポートグループ担当 部長 平成15年7月 当社プロモーション 部長 平成16年4月 アウンコンサルティング㈱入社 平成16年6月 同社営業部 マネージャー 平成16年10月 同社マーケティング部 マネージャー 平成17年4月 当社入社 平成17年10月 当社事業本部営業開発部 ジェネラルマネジャー 平成18年6月 メディアインデックス㈱入社 営業部長 平成19年2月 ㈱mediaba入社 平成19年5月 ㈱プレジジョンマーケティング設立 代表取締役(現任) 平成23年6月 当社取締役兼執行役員 マーチャントセンター プロアドチーム担当 平成23年11月 当社取締役兼執行役員 コンサルティングセンター及び マーチャントセンター担当 平成24年4月 当社取締役兼執行役員 プティック事業部及び ハンズオン事業部担当(現任)	(注)3	
取締役	執行役員	曾 根 弘 一	昭和37年1月3日生	昭和62年2月 ㈱メディアバンク入社 平成3年4月 ボーランド㈱入社 平成7年10月 ㈱サイビス入社 平成9年10月 同社『月刊SOHOコンピューティ ング』編集長 平成12年12月 財団法人日本ソーホー協会 理事(現任) 平成13年11月 ㈱サイビス『月刊SOHOコン ピューティング』発行人 平成17年3月 当社入社 平成17年11月 当社ウェブショップ支援部 ジェネラルマネジャー 平成19年6月 当社執行役員 ショップサブ事業部 事業部長 平成21年6月 当社取締役兼執行役員 営業本部担当 平成22年4月 一般財団法人ネットショップ能力認 定機構 評議員(現任) 平成22年6月 当社取締役兼執行役員 サービス開発部及び営業部担当 平成22年7月 ㈱E Cパートナーズ 取締役(現任) 平成24年1月 当社取締役兼執行役員 事業開発センター及び E C人材事業担当 平成24年4月 当社取締役兼執行役員 事業投資推進部担当(現任)	(注)3	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役	執行役員	柳田 要一	昭和38年3月13日生	昭和61年4月 平成4年4月 平成4年10月 平成7年4月 平成10年4月 平成15年4月 平成16年7月 平成17年9月 平成18年3月 平成18年6月 平成18年11月 平成19年4月 平成20年1月 平成21年6月 ㈱リクルート入社 同社就職情報誌系事業 商品企画室課長 同社同事業営業部 同社より㈱アステル東京 サービス開発部へ出向 同社新規事業開発室 同社住宅情報事業 企画室長 アベクセラ㈱入社 事業企画室長 当社入社HR室 ジェネラルマネジャー 当社ウェブショップ支援部 ジェネラルマネジャー 当社取締役ウェブショップ支援部 ジェネラルマネジャー 当社取締役マーケティング部 ジェネラルマネジャー 当社取締役コーポレートセンター エグゼクティブ 当社取締役兼執行役員 コーポレートセンター担当 当社取締役兼執行役員 コーポレートセンター及び アカウントセンター担当 兼最高情報責任者(現任)	(注)4	142
取締役		畑中 基	昭和45年9月1日生	平成7年4月 平成15年7月 平成21年7月 平成23年1月 平成24年6月 ㈱リムジンインターナショナル入社 ヤフー㈱入社 同社コンシューマ事業統括本部EC 企画本部 マーチャント企画部長 同社コンシューマ事業統括本部EC 企画本部 ソリューション企画部長(現任) 当社取締役(現任)	(注)4	
常勤監査役		田村 誠	昭和26年7月11日生	昭和51年11月 昭和55年6月 昭和57年4月 平成2年4月 平成8年6月 平成10年6月 平成12年3月 平成12年6月 平成17年10月 ㈱トップバン入社 ㈱集英社 ニューヨーク支局入社 ㈱アスキー出版入社 同社社長室 部長 同社取締役 同社インフォメーションカンパニー 業務部 部長 当社取締役 当社監査役(現任) ㈱コムコム 取締役(現任)	(注)5	142
監査役		岩出 誠	昭和26年2月19日生	昭和52年4月 昭和61年5月 平成7年6月 平成10年4月 平成12年3月 平成12年9月 平成13年1月 平成15年6月 平成17年9月 平成18年4月 平成19年4月 平成20年4月 東京弁護士会登録 岩出総合法律事務所開設 所長 (現 ロア・ユナイテッド法律事務所 代表パートナー(現任)) ㈱ダイヤモンド・フリードマン社 監査役(現任) 東京簡易裁判所 民事調停委員 労働省労働基準局「社内預金に関する 研究会」専門委員 当社監査役(現任) 厚生労働省 労働政策審議会 労働条 件分科会 公益代表委員 ㈱ダイヤモンド・ビッグ社 監査役(現任) ㈱ドン・キホーテ 監査役(現任) 青山学院大学客員教授就任(現任) 首都大学東京法科大学院講師(労働 法)就任(現任) ドイト㈱ 監査役(現任) 千葉大学法科大学院 客員教授(労働 法)就任(現任)	(注)5	86
監査役		中村 渡	昭和41年4月25日生	平成3年9月 平成7年1月 平成7年7月 平成8年1月 平成11年4月 平成12年12月 平成16年6月 平成17年10月 アーサーアンダーセン会計事務所 (現 有限責任あずさ監査法人)入社 ㈱マイツ(池田公認会計士事務所) 入社 公認会計士登録 日本合同ファイナンス㈱(現 ㈱ジャ フコ)入社 ジャフコ公開コンサルティング㈱ (現 ジャフココンサルティング㈱) 出向 同社事業投資グループ 中村公認会計士事務所開設 所長(現任) 当社監査役(現任) ㈱コムコム 監査役(現任)	(注)6	4
計						2,947

- (注) 1 取締役 畑中基氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
 2 監査役 岩出誠及び中村渡の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
 3 取締役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 4 取締役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 5 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 6 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 7 当社は、法令に定める監査役の数に欠ける場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
太田 諭 哉	昭和50年12月16日生	平成10年4月 平成13年10月 平成17年2月 平成17年3月 平成18年3月 平成18年6月 安田信託銀行(株)(現 みずほ信託銀行(株))入行 監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)入社 (有)スパイラル・アンド・カンパニー (現 (株)スパイラル・アンド・カンパニー) 代表取締役社長(現任) 公認会計士登録 太田諭哉公認会計士事務所開業 税理士登録 税理士法人スパイラル設立 代表社員(現任)	(注)	

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

#### イ コーポレートガバナンス体制の概要およびその体制を採用する理由

当社は創業以来、的確かつ迅速な意思決定が企業経営における重要な課題であると認識しており、透明性、公平性及びスピードを重視したコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでおります。

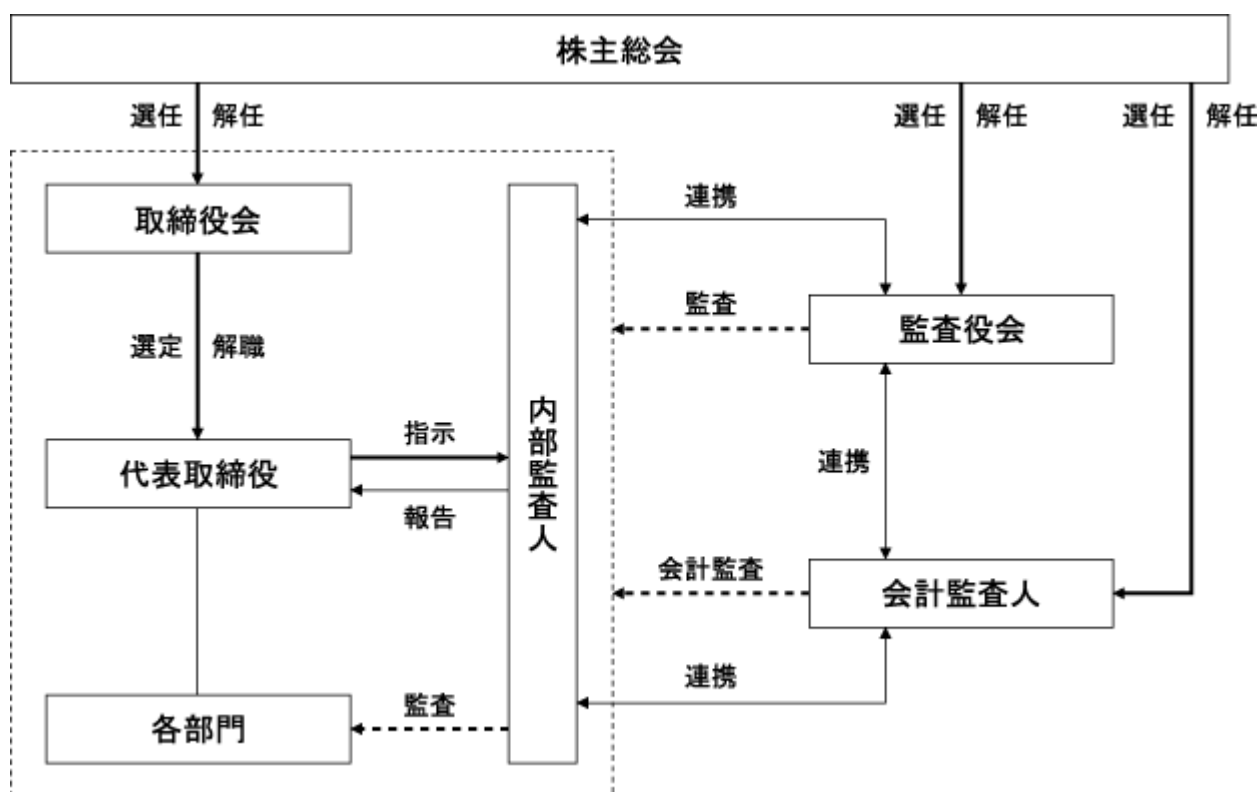
当社は監査役制度を採用しており、取締役会と監査役・監査役会により、取締役の職務執行の監督及び監査を行うとともに、社外役員を招聘しております。

また、当社は小規模組織であること、並びに常勤取締役が過半数いることから機動的に取締役会が開催できる体制を構築しております。

取締役会は、毎月1回開催の定例取締役会に加えて、必要に応じて臨時取締役会を開催し、情報の共有及び意思の疎通を図るとともに、監査役が出席して取締役の業務執行の適正性を監査しております。

また、社内業務執行取締役及びGM職以上からなる会議を適宜開催し、各部門における業務執行の進捗状況について相互の共有化を図るとともに、業務執行上の諸課題についての協議・検討を重ねることで、的確かつ迅速に意思決定ができる体制の確立を図っております。

当社のコーポレートガバナンス体制の模式図は以下のとおりです。



#### ロ 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムといたしましては、内部統制システム構築の基本方針を定めるとともに、内部統制評価委員会を設置し、コンプライアンスの確保、財務報告の信頼性の確保、業務の効率化等を目的とした整備を進めております。

また、内部統制システム構築の基本方針に従い、役員及び従業員が職務を行う上での指針となる行動規範を定め、コンプライアンスの確保・公正な取引など企業倫理等に対する意識向上に努めております。

#### ハ リスク管理体制の整備状況

当社のリスク管理体制といたしましては、組織横断的リスク状況及び全社的対応において、リスク管理規程に基づき、リスク管理委員会が継続的にモニタリングを行い、顕在化したリスクに対して改善を実施し、各部門所管業務に付随するリスク管理は担当部門が行っております。

また、新たに生じた損失の危険への対応が必要な場合は、速やかに対応責任者を定め、必要に応じて法律事務所など外部の専門家の助言を求め、分析及び対策を検討いたします。

#### ニ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制の整備状況

当社は、子会社の自主性を尊重しつつ、事業活動の適性と効率性を確保するために取締役等を派遣し、関係会社管理規程を定め、監視、監督及び指導を行っております。また、子会社から事業の状況について、定期的に報告を受けております。

#### ホ 責任限定契約の概要

当社と社外取締役及び社外監査役全員とは、会社法第427条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、金50万円以上で予め定めた金額又は法令が規定する額のいずれか高い額としております。

#### 内部監査及び監査役監査

当社の内部監査は、代表取締役により任命された内部監査人（1名）が、内部統制システム構築の基本方針に従い、取締役・使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保し、職務が効率的に行われていることを定期的に監査し、監査役と監査実施状況や監査結果を相互に報告しております。

監査役会は、監査役3名（うち社外監査役2名）で構成され、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する監査役が含まれております。

各監査役は監査役会が定めた監査の方針、業務の分担等に従い、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、取締役等から職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧することにより、業務及び財産の状況を調査することを通じて取締役の職務執行状況の監査を行っております。

なお、監査役が法令に定める員数を欠くことになる場合に備え、平成24年6月22日開催の第14回定時株主総会において補欠監査役1名を選任しております。

内部監査人、監査役及び会計監査人は、内部監査規程及び監査役会規則に基づき、監査実施状況や監査結果を相互に報告し、綿密な連携を図っております。

また、必要に応じ内部統制評価委員会と連携し、内部統制に係る現状や課題を協議し、監査の有効性と効率性の確保を図っております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名であります。また、社外監査役は2名であります。

社外取締役である畑中基氏は、当社の「その他の関係会社」であるヤフー株式会社の業務執行者であり、当社とヤフー株式会社との間には、役務提供等の取引関係があります。

社外監査役である岩出誠氏は、弁護士として会社法務・労務問題に豊富な知識・経験等を、中村渡氏は公認会計士として専門的な見地を有しており、当社監査体制に活かしていただけるものと判断し、選任しております。

なお、当該社外監査役2名と当社の間には、人的関係、重要な取引関係及びその他の利害関係はないものと判断しております。また平成24年3月31日時点において当社の株式を保有しておりますが、重要性はないと判断しております。

当社は、社外からの幅広い知見から適切な助言をいただくと共に、中立的・客観的視点から公平性を保ち適正な監視体制を構築するため、社外役員を招聘しております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するにあたり、独立性について特段の定めはありませんが、様々な分野に関する豊富な知識・経験を有し、中立的・客観的な視点から公平性を保ち監督又は監査を行うことのできる者であり、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

また、内部監査及び会計監査の各監査実施状況、並びに内部統制の実施状況については、常勤監査役を通じての報告により、内部監査人及び会計監査人、並びに内部統制評価委員会との連携を図っております。

## 役員の報酬等

### イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック・ オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	76,750	76,750	-	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く。)	11,600	11,600	-	-	-	1
社外役員	4,899	4,899	-	-	-	2

- (注) 1 上記の金額には、使用人兼務取締役2名に対する使用人給与及び賞与相当額(15,080千円)は含まれておりません。
- 2 株主総会決議(平成11年5月24日)による役員報酬限度額(年額)は、取締役500,000千円、監査役100,000千円であります。
- 3 期末日現在の取締役のうち、2名は無報酬となっております。

### ロ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

### ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

## 二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は取締役の報酬に関する方針を定めております。報酬等の額の決定については、世間水準及び経営内容、従業員給与とのバランス等を考慮しております。また配分方法については、取締役会において決定しています。

## 株式の保有状況

### イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 1 銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 0 千円

### ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式のうち、当事業年度における貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超える銘柄

該当する投資株式は保有しておりません。

### ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	0	0			
非上場株式以外の株式	2,250		53	202	

## 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は吉村孝郎氏、早稲田宏氏であり、有限責任監査法人トーマツに所属し、独立した第三者の立場で適正な監査を行っております。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士2名、会計士補等2名、その他1名であります。

## その他

### イ 取締役及び監査役の員数

当社の取締役は7名以内、監査役は5名以内とする旨を定款で定めております。

### ロ 取締役の選解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。また、取締役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

## 八 自己株式の取得における決定機関

当社は、自己の株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

## 二 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## ホ 中間配当

当社は、株主への適時適正な利益還元を可能とすることを目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

## ヘ 取締役等の責任に関する事項

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。



(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

提出会社

前事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
20,000	

区分	当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	20,730	
連結子会社		
計	20,730	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、前期実績と当期見積を比較し、規模・特性・監査日数等を勘案し、監査役会の同意を得たうえで決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しています。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しています。
- (3) 当連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）は、連結財務諸表の作成初年度にあたるため、以下に掲げる連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書については、前連結会計年度との対比は行っていません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けています。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

		当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金		2,327,166
売掛金		749,471
原材料及び貯蔵品		4,687
前渡金		97,654
前払費用		71,868
繰延税金資産		62,685
仕掛品		400
その他		20,582
貸倒引当金		8,557
流動資産合計		3,325,958
固定資産		
有形固定資産		
建物		30,204
減価償却累計額		14,795
建物(純額)		15,408
工具、器具及び備品		718,224
減価償却累計額		546,657
工具、器具及び備品(純額)		171,566
有形固定資産合計		186,974
無形固定資産		
ソフトウェア		292,807
のれん		17,317
その他		200
無形固定資産合計		310,325
投資その他の資産		
投資有価証券	1	41,890
敷金		116,439
繰延税金資産		23,631
長期貸付金		20,259
その他		4,393
貸倒引当金		17,127
投資その他の資産合計		189,487
固定資産合計		686,787
資産合計		4,012,746

(単位：千円)

当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	276,188
未払金	144,639
未払法人税等	71,901
預り金	1,465,405
賞与引当金	61,253
1年内返済予定の長期借入金	6,000
その他	152,570
流動負債合計	2,177,960
固定負債	
資産除去債務	10,502
長期借入金	15,000
固定負債合計	25,502
負債合計	2,203,463
純資産の部	
株主資本	
資本金	523,328
資本剰余金	539,416
利益剰余金	1,724,373
自己株式	991,853
株主資本合計	1,795,265
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	2,051
その他の包括利益累計額合計	2,051
新株予約権	2,239
少数株主持分	13,829
純資産合計	1,809,283
負債純資産合計	4,012,746

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	5,337,150
売上原価	3,568,828
売上総利益	1,768,322
販売費及び一般管理費	1, 2 1,270,564
営業利益	497,758
営業外収益	
投資有価証券売却益	8,839
為替差益	2,567
受取配当金	957
受取利息	846
雑収入	1,224
営業外収益合計	14,435
営業外費用	
投資事業組合運用損	5,623
投資有価証券売却損	2,067
支払利息	607
雑損失	208
営業外費用合計	8,506
経常利益	503,686
特別利益	
投資有価証券売却益	2,260
段階取得に係る差益	12,320
固定資産売却益	3 108
特別利益合計	14,689
特別損失	
関係会社株式評価損	19,789
貸倒引当金繰入額	10,692
債権放棄損	3,212
特別損失合計	33,694
税金等調整前当期純利益	484,681
法人税、住民税及び事業税	192,163
法人税等調整額	21,525
法人税等合計	213,688
少数株主損益調整前当期純利益	270,993
少数株主損失( )	9,720
当期純利益	280,713

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

当連結会計年度  
(自平成23年4月1日  
至平成24年3月31日)

少数株主損益調整前当期純利益	270,993
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	6,806
その他の包括利益合計	1 6,806
包括利益	264,186
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	274,157
少数株主に係る包括利益	9,970

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>株主資本</b>	
<b>資本金</b>	
当期首残高	523,328
当期末残高	523,328
<b>資本剰余金</b>	
当期首残高	539,408
当期変動額	
連結子会社所有の親会社株式の処分差益	7
当期変動額合計	7
当期末残高	539,416
<b>利益剰余金</b>	
当期首残高	1,541,462
当期変動額	
剰余金の配当	97,802
当期純利益	280,713
当期変動額合計	182,910
当期末残高	1,724,373
<b>自己株式</b>	
当期首残高	991,853
当期変動額	
新規連結子会社が所有する親会社株式	60
連結子会社所有の親会社株式の処分	60
当期変動額合計	-
当期末残高	991,853
<b>株主資本合計</b>	
当期首残高	1,612,347
当期変動額	
剰余金の配当	97,802
当期純利益	280,713
新規連結子会社が所有する親会社株式	60
連結子会社所有の親会社株式の処分	60
連結子会社所有の親会社株式の処分差益	7
当期変動額合計	182,918
当期末残高	1,795,265

(単位：千円)

当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
<b>その他の包括利益累計額</b>	
<b>その他有価証券評価差額金</b>	
当期首残高	4,504
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,556
当期変動額合計	6,556
当期末残高	2,051
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	
当期首残高	4,504
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,556
当期変動額合計	6,556
当期末残高	2,051
<b>新株予約権</b>	
当期首残高	2,239
当期末残高	2,239
<b>少数株主持分</b>	
当期首残高	-
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13,829
当期変動額合計	13,829
当期末残高	13,829
<b>純資産合計</b>	
当期首残高	1,619,091
当期変動額	
剰余金の配当	97,802
当期純利益	280,713
新規連結子会社が所有する親会社株式	60
連結子会社所有の親会社株式の処分	60
連結子会社所有の親会社株式の処分差益	7
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,273
当期変動額合計	190,191
当期末残高	1,809,283



【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前当期純利益	484,681
のれん償却額	3,056
減価償却費	216,499
貸倒引当金の増減額（は減少）	10,682
賞与引当金の増減額（は減少）	7,170
受取利息及び受取配当金	1,804
支払利息	607
為替差損益（は益）	2,567
投資事業組合運用損益（は益）	5,623
投資有価証券売却損益（は益）	9,032
有形固定資産売却損益（は益）	108
関係会社株式評価損	19,789
段階取得に係る差損益（は益）	2 12,320
売上債権の増減額（は増加）	252,174
仕入債務の増減額（は減少）	63,792
未払金の増減額（は減少）	27,296
預り金の増減額（は減少）	258,635
その他の資産の増減額（は増加）	4,059
その他の負債の増減額（は減少）	26,692
小計	850,578
利息及び配当金の受取額	1,804
利息の支払額	607
法人税等の支払額	259,226
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>592,548</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
保険積立金の積立による支出	528
貸付けによる支出	33,400
貸付金の回収による収入	20,000
有形固定資産の取得による支出	67,081
有形固定資産の売却による収入	290
無形固定資産の取得による支出	109,271
投資有価証券の取得による支出	5,157
投資有価証券の売却による収入	92,350
関係会社株式の取得による支出	3,350
新規連結子会社の取得による収入	2 23,803
敷金の回収による収入	891
その他	630
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>82,083</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
1年内返済予定の長期借入金の返済による支出	11,700
長期借入金の返済による支出	49,540
配当金の支払額	97,985
その他	70
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>159,155</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,567
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	353,877
現金及び現金同等物の期首残高	1,973,289
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,327,166

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び名称

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 株式会社プレジジョンマーケティング

(2) 非連結子会社の名称

株式会社パーソナルショップ

連結の範囲から除いた理由

株式会社パーソナルショップは、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためです。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

インターネット・ビジネス・フロンティア株式会社

株式会社ECパートナーズ

株式会社ECホールディングス

株式会社パーソナルショップ

株式会社ポイントラグ

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しています。

3. 連結子会社の決算日等に関する事項

従来、決算日が4月30日であった株式会社プレジジョンマーケティングは、親会社決算日と連結子会社の決算日を統一して、連結財務諸表をより適正化するため、第2四半期連結会計期間より、決算日を3月31日に変更しています。この変更により、平成23年5月1日から平成24年3月31日までの11ヶ月決算となっています。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しています。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しています。ただし、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資は、組合等の財産の持分相当額を有価証券として計上し、組合等の営業により獲得した損益の持分相当額を損益として計上する方法によっています。

たな卸資産

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しています。

#### 仕掛品

個別法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しています。

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### 有形固定資産

定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	8～15年
工具、器具及び備品	5～15年

##### 無形固定資産

自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しています。

#### (3) 重要な引当金の計上基準

##### 貸倒引当金

債権の貸倒に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しています。

##### 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期負担額を計上しています。

#### (4) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しています。

#### (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資となっています。

#### (6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

##### 消費税等の会計処理

税抜方式によっています。

【追加情報】

当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用しています。

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりです。

	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	25,105千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりです。

	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
広告宣伝費	220,830千円
代理店手数料	159,132 "
給与	165,002 "
賞与引当金繰入額	18,672 "
地代家賃	135,725 "
貸倒引当金繰入額	4,991 "

2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりです。

	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
一般管理費	23千円

3 固定資産売却益の内容は、次のとおりです。

	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
工具、器具及び備品	108千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
その他有価証券評価差額金	
当期発生額	4,486千円
組替調整額	6,771 "
税効果調整前	11,258千円
税効果額	4,451 "
その他有価証券評価差額金	6,806千円
その他の包括利益合計	6,806千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	51,636			51,636
自己株式				
普通株式(株)	9,111	1	1	9,111

(注) 1 自己株式の普通株式の増加1株は、連結子会社が所有する親会社株式の親会社持分による増加です。  
2 自己株式の普通株式の減少1株は、連結子会社が所有する親会社株式の売却による減少です。

2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)			当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	
提出会社	平成17年新株予約権	普通株式	1,180			1,180
	平成21年新株予約権	普通株式	60			60
合計			1,240			1,240

(注) 目的となる株式の数は、新株予約権が行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しています。

### 3. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月22日 定時株主総会	普通株式	97,807	2,300	平成23年3月31日	平成23年6月23日

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	繰越利益 剰余金	97,807	2,300	平成24年3月31日	平成24年6月25日

#### (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金	2,327,166千円
現金及び現金同等物	2,327,166千円

- 2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに株式会社プレジジョンマーケティングを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係  
株式会社プレジジョンマーケティング(以下、プレシ社という。)

(平成23年6月30日現在)

流動資産	135,202千円
固定資産	21,370 "
のれん	20,373 "
流動負債	45,311 "
固定負債	64,540 "
その他有価証券評価差額金	44 "
少数株主持分	23,800 "
段階取得に係る差益	12,320 "
プレシ社株式の既取得価額	6,930 "
プレシ社の株式の取得価額	24,000千円
プレシ社の現金及び現金同等物	47,803 "
差引：プレシ社取得による収入	23,803千円

(金融商品関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運転資金は主に自己資金により賄っていますが、一部銀行借入により調達しています。また、一時的な余資については、原則として預金等を中心として元本が保証されるか、もしくはそれに準じる安全性の高い金融資産で運用を行っています。なお、デリバティブに関連する取引は行っていません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されていますが、当社は、販売管理規程に従い、営業債権について、販売担当部門と財務経理担当部門、課金担当部門が主要な取引先の状況についての情報を共有し、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っています。連結子会社についても、当社の販売管理規程に準じて、同様の管理を行っています。

投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式及び組合出資金であり、純投資目的及び事業推進目的で保有しています。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されていますが、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しています。

営業債務である買掛金及び未払金並びに預り金は、そのすべてが1年以内の支払期日です。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません（（注2）参照）。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,327,166	2,327,166	
(2) 売掛金	749,471		
貸倒引当金( 1)	4,991		
	744,479	744,479	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	7,159	7,159	
(4) 敷金	116,439	107,733	8,706
資産計	3,195,245	3,186,539	8,706
(1) 買掛金	276,188	276,188	
(2) 未払金	144,639	144,639	
(3) 未払法人税等	71,901	71,901	
(4) 預り金	1,465,405	1,465,405	
(5) 長期借入金( 2)	21,000	21,042	42
負債計	1,979,135	1,979,178	42

- 1 売掛金に対応する一般貸倒引当金を控除しています。
- 2 長期借入金には、1年内返済予定の長期借入金が含まれています。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、取引所の価格によっています。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(4) 敷金

敷金の時価については、返還時期を見積ったうえ、将来キャッシュ・フローを無リスクの利率で割引いて算定する方法によっています。



## 負債

- (1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等、(4) 預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格によっています。

- (5) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっています。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	25,105
その他	9,625

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めていません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：千円)

	1年内	1年超 2年内	2年超 3年内	3年超 4年内	4年超 5年内	5年超
現金及び預金	2,327,166					
売掛金	744,479					
合計	3,071,645					

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

当連結会計年度(平成24年3月31日)

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結附属明細表」の「借入金等明細表」をご参照ください。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	105	138	32
外国債券	7,053	7,561	507
合計	7,159	7,770	540

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 0千円)、投資事業組合出資(連結貸借対照表計上額 9,625千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	4,605	2,683	220
その他	70,163	8,416	1,846
合計	74,769	11,099	2,067

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

当連結会計年度において、関連会社株式について 19,789千円減損処理を行っています。

(デリバティブ取引関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 当事業年度における費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成17年6月24日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 6 当社監査役 3 当社従業員 56 社外協力者 5
株式の種類及び付与数(株)(注)	普通株式 1,840
付与日	平成17年12月16日
権利確定条件	新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員であることを要する。ただし、社命による転籍の場合は除く。 対象者のうち、社外協力者は新株予約権の行使時においても、社外協力者であることを要する。 この他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成19年7月1日～平成27年3月31日まで

(注) 株式数に換算して記載しています。

会社名	提出会社
決議年月日	平成21年5月20日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 2 当社従業員 1
株式の種類及び付与数(株)(注)	普通株式 60
付与日	平成21年6月1日
権利確定条件	新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員であることを要する。ただし、社命による転籍の場合は除く。 権利を与えられた者が死亡した場合は、その死亡時において本人が行使しうる株式数を上限として6ヶ月以内(ただし、新株予約権の行使期間の末日までとする)に相続人の行使を認める。なお、行使開始日以前に死亡した場合は、相続を認めない。 新株予約権の質入その他一切の処分は認めないものとする。 この他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成22年7月1日～平成30年3月31日まで

(注) 株式数に換算して記載しています。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成24年3月31日）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しています。

ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	平成17年6月24日	平成21年5月20日
権利確定前		
期首(株)		
付与(株)		
失効(株)		
権利確定(株)		
未確定残(株)		
権利確定後		
期首(株)	1,180	60
権利確定(株)		
権利行使(株)		
失効(株)		
未行使残(株)	1,180	60

単価情報

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	平成17年6月24日	平成21年5月20日
権利行使価格(円)	320,000	70,916
行使時平均株価(円)		
付与日における公正な評価単価(円)		37,324

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
(流動の部)	
繰延税金資産	
貸倒損失否認	23,633千円
賞与引当金繰入限度超過額	23,276 "
未払事業税	5,774 "
未払賞与	4,492 "
その他	5,509 "
繰延税金資産の純額	62,685千円
(固定の部)	
繰延税金資産	
投資有価証券評価損否認	18,703千円
資産除去債務	3,893 "
新株予約権	797 "
その他有価証券評価差額金	1,304 "
その他	349 "
繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	1,418 "
繰延税金資産の純額	23,631千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異内訳

当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
法定実効税率	40.7%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5 "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.0 "
住民税均等割等	0.1 "
雇用促進税制による税額控除	1.0 "
税率変更に伴う期末繰延税金資産の減額修正	1.9 "
その他	0.9 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.1%

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.7%から、回収又は支払いが見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.0%、平成27年4月1日以降のものについては35.6%にそれぞれ変更されています。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が9,045千円減少し、当連結会計年度計上された法人税等調整額が9,009千円、その他有価証券評価差額金額が35千円、それぞれ増加しております。

#### （企業結合等関係）

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

#### 取得による企業結合

##### 1. 企業結合の概要

###### （1）被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	株式会社プレジジョンマーケティング
事業の内容	各種マーケティングのコンサルティング・代行事業

###### （2）企業結合を行った主な理由

WEBマーケティングを得意とする株式会社プレジジョンマーケティングの代表取締役を当社取締役に迎え、ノウハウの享受と両者の強みを活かした事業の展開を行うためです。

###### （3）企業結合日

平成23年6月22日

###### （4）企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

###### （5）結合後企業の名称

株式会社プレジジョンマーケティング

###### （6）取得した議決権比率

結合直前に所有していた議決権比率	29.96%
追加取得した議決権比率	19.05%
取得後の議決権比率	49.01%

###### （7）取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が株式会社プレジジョンマーケティングの株式を取得したこと、及び当社の第13回定時株主総会において被取得企業の代表取締役が当社取締役となることが決議され、当社が同社を実質的に支配していると認められるためです。

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成23年6月30日から平成24年3月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	企業結合日における時価	43,250千円
取得原価		43,250千円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 12,320千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1)発生したのれん金額 20,373千円

(2)発生原因 今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生した  
ものです。

(3)償却方法及び償却期間 5年間にわたる均等償却

(資産除去債務関係)

重要性に乏しいため、記載を省略しています。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

## (1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは、事業別のセグメントから構成されており、ウェブショップ総合サービスを中心とする「EC事業」及び、WEBマーケティングを中心とする「広告事業」の2つを報告セグメントとしています。

## (2) 各セグメントに属する製品及びサービスの種類

「EC事業」は、主にウェブショップ総合サービスであるショップサブ、ホスティングサービスであるサイトサブ、ショッピングカートであるストアツールの提供をしています。

「広告事業」は、様々なWEBマーケティング手法を組み合わせることにより、ワンストップでのWEBマーケティングを提供しています。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一です。

報告セグメントの利益は、営業利益の数値です。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいています。

## 3. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	EC事業	広告事業	
売上高			
外部顧客への売上高	4,250,796	1,086,353	5,337,150
セグメント間の内部売上高又は振替高		147,126	147,126
計	4,250,796	1,233,480	5,484,277
セグメント利益または損失( )	516,455	15,640	500,814
セグメント資産	3,530,757	481,988	4,012,746
セグメント負債	1,932,753	270,709	2,203,463
その他の項目			
減価償却費	211,104	5,370	216,475
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	181,908	2,014	183,922

(注) 第1四半期連結累計期間より株式会社プレジジョンマーケティングを連結子会社としたことに伴い、同社の事業を「広告事業」として新たに報告セグメントに区分しています。



4. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	500,814
のれんの償却額	3,056
連結損益計算書の営業利益	497,758

【関連情報】

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	EC事業	広告事業	計			
当期償却額		3,056	3,056			3,056
当期末残高		17,317	17,317			17,317

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の 内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
役員	高崎青史			(株)プレジジョンマーケティングの代表取締役		(株)プレジジョンマーケティングの代表取締役 役員の兼任	債務被保証 (注)	21,000		

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 連結子会社である株式会社プレジジョンマーケティングの借入に対して、同社の代表取締役である高崎青史からの連帯保証を受けています。また、同氏は当社取締役を兼任しています。なお、保証料の支払は行っていません。

親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の 内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他の関係会社	ヤフー(株)	東京都港区	7,959,000	インターネット上の広告事業、イコマース事業、会員サービス業	(被所有) 直接 32.5	営業上の取引	WEB広告の委託 (注)	471,469	買掛金	65,182

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1 上記取引については、一般的取引条件と同様に決定しています。

2 取引金額には消費税等を含めていません。期末残高には消費税等を含めています。

(1株当たり情報)

項目	当連結会計年度 (自平成23年4月31日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	42,168.47円
1株当たり当期純利益金額	6,601.30円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	6,599.75円

(注) 1 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎

項目	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
連結損益計算書上の当期純利益(千円)	280,713
普通株主に係る当期純利益(千円)	280,713
普通株式に帰属しない金額(千円)	
普通株式の期中平均株式数(株)	42,524
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に用いられた普通株式増加数の主要な内訳(株) 新株予約権	9
普通株式増加数(株)	9
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	<p>新株予約権の目的となる株式の数 平成17年新株予約権 1,180株</p> <p>行使価格 320,000円</p> <p>期中平均株価 84,598円</p> <p>なお、新株予約権等の概要は、「第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりです。</p>

2 1株当たり純資産額及び算定上の基礎

項目	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	1,809,283
普通株式に係る純資産額(千円)	1,793,214
差額の主な内訳(千円) 新株予約権	2,239
少数株主持分	13,829
普通株式の発行済株式数(株)	51,636
普通株式の自己株式数(株)	9,111
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	42,525

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金		6,000	1.6%	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)		15,000	1.6%	平成25年4月1日～ 平成27年8月26日
合計		21,000		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	6,000	6,000	3,000	

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しています。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,050,073	2,375,083	3,804,734	5,337,150
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (千円)	165,052	257,123	386,348	484,681
四半期(当期)純利益金額 (千円)	98,564	152,000	222,567	280,713
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	2,317.86	3,574.47	5,233.93	6,601.30

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	2,317.86	1,256.61	1,659.46	1,367.35

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,973,289	2,240,857
売掛金	456,669	493,864
原材料及び貯蔵品	4,796	4,687
前渡金	1,642	5,444
前払費用	72,180	70,950
繰延税金資産	72,882	62,685
短期貸付金	1	179,468
その他	18,784	3,218
貸倒引当金	5,002	8,557
流動資産合計	2,595,243	3,052,620
固定資産		
有形固定資産		
建物	29,416	29,416
減価償却累計額	10,757	14,181
建物(純額)	18,659	15,235
工具、器具及び備品	826,861	715,576
減価償却累計額	630,895	544,763
工具、器具及び備品(純額)	195,965	170,813
有形固定資産合計	214,625	186,049
無形固定資産		
ソフトウェア	277,750	279,208
ソフトウェア仮勘定	15,034	12,932
その他	200	200
無形固定資産合計	292,985	292,341
投資その他の資産		
投資有価証券	86,282	9,625
関係会社株式	48,475	56,035
出資金	500	500
敷金	114,084	114,084
繰延税金資産	30,456	23,088
長期貸付金	10,000	10,000
関係会社長期貸付金	-	8,932
長期前払費用	196	205
その他	260	890
貸倒引当金	10,000	17,127
投資その他の資産合計	280,255	206,234
固定資産合計	787,866	684,625
資産合計	3,383,110	3,737,245

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	123,743	130,114
未払金	110,960	102,828
未払費用	16,058	21,512
未払法人税等	139,271	70,447
前受金	71,463	58,778
預り金	1,204,151	1,461,883
賞与引当金	54,083	61,253
その他	33,963	24,155
流動負債合計	1,753,694	1,930,973
固定負債		
資産除去債務	10,323	10,502
固定負債合計	10,323	10,502
負債合計	1,764,018	1,941,476
純資産の部		
株主資本		
資本金	523,328	523,328
資本剰余金		
資本準備金	134,852	134,852
その他資本剰余金	404,556	404,556
資本剰余金合計	539,408	539,408
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,541,462	1,724,456
利益剰余金合計	1,541,462	1,724,456
自己株式	991,853	991,853
株主資本合計	1,612,347	1,795,340
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,504	1,811
評価・換算差額等合計	4,504	1,811
新株予約権	2,239	2,239
純資産合計	1,619,091	1,795,768
負債純資産合計	3,383,110	3,737,245

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	4,068,981	4,250,796
売上原価	2,286,085	2,525,731
売上総利益	1,782,895	1,725,065
販売費及び一般管理費	1,179,209 <sup>1, 2</sup>	1,208,610 <sup>1, 2</sup>
営業利益	603,686	516,455
営業外収益		
受取利息	37 <sup>3</sup>	2,068 <sup>3</sup>
受取配当金	289	953
有価証券利息	4,234	18
投資有価証券売却益	-	8,839
投資有価証券割当益	1,783	-
雑収入	965	3,591
営業外収益合計	7,310	15,470
営業外費用		
自己株式取得費用	478	-
投資事業組合運用損	97	5,623
投資有価証券売却損	18,436	2,067
雑損失	17	194
営業外費用合計	19,029	7,885
経常利益	591,967	524,040
特別利益		
投資有価証券売却益	22,999	2,249
特別利益合計	22,999	2,249
特別損失		
固定資産除却損	15,871 <sup>4</sup>	- <sup>4</sup>
投資有価証券評価損	12,707	-
関係会社株式評価損	11,704	19,789
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,698	-
貸倒引当金繰入額	-	10,692
債権放棄損	6,898	3,212
特別損失合計	51,880	33,694
税引前当期純利益	563,086	492,595
法人税、住民税及び事業税	245,640	190,029
法人税等調整額	11,342	21,765
法人税等合計	234,298	211,794
当期純利益	328,787	280,800

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
商品仕入高			9,006	0.4	
労務費			485,053	21.2	542,290
外注費			249,660	10.9	276,827
経費					
1 ハウジング		145,124			148,296
2 ドメイン関連費用		75,028			45,322
3 減価償却費		170,738			196,319
4 通信費		91,352			82,833
5 消耗品費		16,407			22,824
6 サービス代行手数料		765,728			909,204
7 支払手数料		254,422			272,425
8 その他		23,564	1,542,364	67.5	29,386
当期売上原価			2,286,085	100.0	2,525,731

(注) 原価計算方法は、個別原価計算による実際原価計算です。



## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	523,328	523,328
当期末残高	523,328	523,328
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	134,852	134,852
当期末残高	134,852	134,852
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	404,556	404,556
当期末残高	404,556	404,556
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	539,408	539,408
当期末残高	539,408	539,408
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	1,300,083	1,541,462
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	87,408	97,807
当期純利益	328,787	280,800
<b>当期変動額合計</b>	241,379	182,993
当期末残高	1,541,462	1,724,456
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	1,300,083	1,541,462
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	87,408	97,807
当期純利益	328,787	280,800
<b>当期変動額合計</b>	241,379	182,993
当期末残高	1,541,462	1,724,456
<b>自己株式</b>		
当期首残高	782,244	991,853
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	209,609	-
<b>当期変動額合計</b>	209,609	-
当期末残高	991,853	991,853
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	1,580,577	1,612,347
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	87,408	97,807
当期純利益	328,787	280,800
自己株式の取得	209,609	-
<b>当期変動額合計</b>	31,769	182,993
当期末残高	1,612,347	1,795,340

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	11,126	4,504
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15,631	6,316
当期変動額合計	15,631	6,316
当期末残高	4,504	1,811
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	11,126	4,504
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15,631	6,316
当期変動額合計	15,631	6,316
当期末残高	4,504	1,811
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	1,722	2,239
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	516	-
当期変動額合計	516	-
当期末残高	2,239	2,239
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	1,571,173	1,619,091
当期変動額		
剰余金の配当	87,408	97,807
当期純利益	328,787	280,800
自己株式の取得	209,609	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,148	6,316
当期変動額合計	47,918	176,677
当期末残高	1,619,091	1,795,768

## 【重要な会計方針】

### 1．有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しています。

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しています。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しています。ただし、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資は、組合等の財産の持分相当額を有価証券として計上し、組合等の営業により獲得した損益の持分相当額を損益として計上する方法によっています。

### 2．たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しています。

### 3．固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	8～15年
工具、器具及び備品	5～15年

#### (2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しています。

### 4．引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しています。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期負担額を計上しています。

### 5．その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっています。

## 【表示方法の変更】

### (貸借対照表関係)

前事業年度において「ソフトウェア」に含めていました「ソフトウェア仮勘定」(当事業年度12,932千円)については、継続的に重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しています。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の貸借対照表の組替えを行っています。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「ソフトウェア」に表示していた292,785千円は、「ソフトウェア」277,750千円、「ソフトウェア仮勘定」15,034千円として組替えております。

前事業年度において区分掲記していました「未払消費税等」(当事業年度19,495千円)については、継続的に重要性が乏しくなったため、当事業年度においては流動負債の「その他」に含めて表示しています。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の貸借対照表の組替えを行っています。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「未払消費税等」に表示していた29,378千円は、「その他」33,963千円として組替えております。

## 【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しています。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
短期貸付金		179,468千円

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なもののうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
広告宣伝費	200,519千円	229,693千円
代理店手数料	184,086 "	159,132 "
役員報酬	92,749 "	93,249 "
給与	150,727 "	159,285 "
賞与引当金繰入額	18,100 "	18,672 "
地代家賃	127,404 "	130,499 "
減価償却費	16,462 "	14,785 "
貸倒引当金繰入額	5,002 "	4,991 "
おおよその割合		
販売費	37%	37%
一般管理費	63%	63%

2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
一般管理費	30千円	23千円

3 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
受取利息		2,025千円

4 固定資産除却損の内訳は、次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	5,566千円	
工具、器具及び備品	4,405 "	
ソフトウェア	920 "	
その他	4,979 "	
合計	15,871千円	

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
自己株式				
普通株式(株)	6,811	2,300		9,111

(注) 自己株式の普通株式の株式数の増加 2,300株は、取締役会決議による自己株式の買付けによるものです。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
自己株式				
普通株式(株)	9,111			9,111

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
子会社株式	10,000	40,930
関連会社株式	38,475	15,105
計	48,475	56,035

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めていません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(流動の部)		
繰延税金資産		
貸倒損失否認	23,084千円	23,633千円
賞与引当金繰入額限度超過額	22,006 "	23,276 "
未払事業税	10,853 "	5,774 "
未払賞与	8,441 "	4,492 "
その他	8,496 "	5,509 "
繰延税金資産合計	72,882千円	62,685千円
繰延税金資産の純額	72,882千円	62,685千円
(固定の部)		
繰延税金資産		
投資有価証券評価損否認	30,376千円	18,703千円
資産除去債務	4,200 "	3,742 "
新株予約権	911 "	797 "
その他有価証券評価差額金		1,110 "
その他	42 "	153 "
繰延税金資産合計	35,531千円	24,506千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	3,090千円	
その他	1,984 "	1,418千円
繰延税金負債合計	5,074千円	1,418千円
繰延税金資産の純額	30,456千円	23,088千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率		40.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		1.4 "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		0.0 "
住民税均等割等		0.1 "
雇用促進税制による税額控除		1.0 "
税率変更に伴う期末繰延税金資産の減額修正		1.8 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率		43.0%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.7%から、回収又は支払いが見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.0%、平成27年4月1日以降のものについては35.6%にそれぞれ変更されています。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が9,176千円減少し、当事業計年度計上された法人税等調整額が9,098千円、その他有価証券評価差額金額が78千円、それぞれ増加しています。

#### （企業結合等関係）

連結財務諸表の注記事項（企業結合等関係）における記載内容と同一であるため、記載していません。

#### （資産除去債務関係）

重要性に乏しいため、記載を省略しています。



( 1 株当たり情報 )

項目	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
1 株当たり純資産額	38,021.22円	42,175.88円
1 株当たり当期純利益金額	7,567.21円	6,603.19円
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額	7,563.90円	6,601.79円

(注) 1 1 株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

項目	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	328,787	280,800
普通株式に係る当期純利益(千円)	328,787	280,800
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	43,449	42,525
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額の算定に用いられた普通株式増加数の主要な内訳(株) 新株予約権	18	9
普通株式増加数(株)	18	9
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	<p>新株予約権の目的となる株式の数 平成17年新株予約権 1,180株</p> <p>行使価格 320,000円</p> <p>期中平均株価 102,604円</p> <p>なお、新株予約権等の概要は、「第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりです。</p>	<p>新株予約権の目的となる株式の数 平成17年新株予約権 1,180株</p> <p>行使価格 320,000円</p> <p>期中平均株価 84,598円</p> <p>なお、新株予約権等の概要は、「第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりです。</p>

(注) 2 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	1,619,091	1,795,768
普通株式に係る純資産額(千円)	1,616,852	1,793,529
差額の主な内訳(千円) 新株予約権	2,239	2,239
普通株式の発行済株式数(株)	51,636	51,636
普通株式の自己株式数(株)	9,111	9,111
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 (株)	42,525	42,525

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	29,416			29,416	14,181	3,424	15,235
工具、器具及び備品	826,861	83,632	194,916	715,576	544,763	98,215	170,813
有形固定資産計	856,278	83,632	194,916	744,993	558,944	101,639	186,049
無形固定資産							
ソフトウェア	428,231	100,377	17,627	510,981	231,773	95,402	279,208
ソフトウェア仮勘定	15,034	86,416	88,518	12,932			12,932
その他	200			200			200
無形固定資産計	443,466	186,793	106,145	524,115	231,773	95,402	292,341

(注) 1 当期増加額のうち、主なものは以下のとおりです。

工具、器具及び備品	サーバー等	81,183千円
工具、器具及び備品	オフィス機器	2,448千円
ソフトウェア	新サービスシステム構築	11,640千円
ソフトウェア	ソフトウェア仮勘定からの振替	88,518千円
ソフトウェア仮勘定	新サービスシステム構築	86,416千円

2 当期減少額のうち、主なものは以下のとおりです。

工具、器具及び備品	サーバー等	192,939千円
工具、器具及び備品	オフィス機器	1,604千円
ソフトウェア	ソフトウェア等	17,627千円
ソフトウェア仮勘定	ソフトウェアへの振替	88,518千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	15,002	15,684	5,002		25,684
賞与引当金	54,083	61,253	52,881	1,202	61,253

(注) 賞与引当金の当期減少額(その他)は、実際支給額との差額による取り崩しによるものです。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	2,716
預金	
当座預金	1,252
普通預金	2,235,199
別段預金	1,689
計	2,238,140
合計	2,240,857

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社U S E N	19,363
ソニーマーケティング株式会社	5,372
株式会社アイフラッグ	4,001
その他(一般消費者他)	465,126
合計	493,864

(注) 株式会社アイフラッグは、平成24年1月4日付で株式会社S B Rから商号変更しています。

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首越高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	当期末残高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
456,669	4,463,336	4,426,141	493,864	89.96	38.97

(注) 当期発生高には、消費税等が含まれています。

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
広報宣伝用資材	2,445
小冊子	1,250
教材テキスト及びDVD	112
マニュアル	770
その他	108
合計	4,687

買掛金  
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
三菱UFJニコス株式会社	28,522
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	20,528
株式会社ジェーシービー	17,832
株式会社いつも.	5,002
株式会社ティックス	4,165
その他	54,062
合計	130,114

預り金

内訳	金額(千円)
顧客決済代金預り金	1,446,554
従業員預り金	13,176
その他	2,152
合計	1,461,883

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	
単元未満株の買取り  取扱場所  株主名簿管理人  取次所  買取手数料	
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 <a href="http://Estore.co.jp/">http://Estore.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類、並びに確認書

事業年度 第13期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月23日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月24日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書、及び確認書

第14期第1四半期（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出。

第14期第2四半期（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月11日関東財務局長に提出。

第14期第3四半期（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月13日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

平成23年6月27日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月22日

株式会社 E ス ト ア ー  
取 締 役 会 御 中

### 有限責任監査法人 ト ー マ ッ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉 村 孝 郎	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	早 稲 田 宏	印

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社Eストアーの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社Eストアー及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社Eストアーの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社Eストアーが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年6月22日

株式会社Eストアー  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉村 孝郎	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	早稲田 宏	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社Eストアーの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第14期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社Eストアーの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。